



令和2年2月18日  
矢作川流域圏懇談会事務局  
中部地方整備局豊橋河川事務所

**流域は一つ、山・川・海、調和のとれた  
矢作川流域圏の発展を目指し、様々な活動を展開  
～今年度の取り組みと次年度の活動目標、10年のとりまとめについて話し合います～  
矢作川流域圏懇談会 第9回全体会議を開催します**

#### 1. 概要

矢作川流域圏懇談会は10年目を迎え、山・川・海の参加者が主体となり多くの課題解決に向けた活動を展開しています。

市民部会では、山・川・海各部会での活動の情報交換や、流域連携テーマ(ごみ・流木、土砂、木づかい)の取り組みに向けた議論、市民提案による勉強会等を実施しています。

山部会では、矢作川の山の課題を「人と地域の問題」と「森の問題」の2点に絞り、4つのテーマ(・山村再生担い手づくり事例集・山村ミーティング・森づくりガイドライン・木づかいガイドライン)について意見交換をしています。

川部会では、「生き物の棲みやすい川づくり(上下流問題)」と「地先の課題」を課題とし、本川モデル、支川モデル、流域連携モデルを選定し意見交換をしています。

海部会では、「ごみ・流木の問題」「豊かな海の生物調査」「豊かな海の再生」「海と人の絆再生」「干潟・ヨシ原再生」の課題について意見交換をしています。

今回の全体会議では、各部会の今年度の取り組みと次年度の活動目標、10年のとりまとめについて話し合いを行います。

#### 2. 日時

令和2年2月25日(火) 14時00分～16時30分

#### 3. 場所

愛知県西三河総合庁舎 10階 大会議室

住所:岡崎市明大寺本町1-4

電話:0564-23-1211(代表)

(名鉄東岡崎駅から徒歩5分)

駐車場は、庁舎棟東隣りにありますが、できるだけ公共交通機関をご利用ください。

#### 4. 添付資料

- ・矢作川流域圏懇談会パンフレット
- ・矢作川流域圏懇談会の活動進捗

#### 5. 解禁 指定なし

#### 6. 配布先

豊田市政記者クラブ、豊田市政記者東クラブ

岡崎市政記者会、岡崎新聞記者会

恵那記者会、岐阜県政記者クラブ、飯田市記者クラブ

〈問合せ先〉

事務局: 中部地方整備局 豊橋河川事務所 事業対策官 神本 崇

電話:0532-48-8107(ダイヤルイン) FAX:0532-48-8100

# 水と人がつなぐ山・川・海 皆で取り組む流域一体の川づくり



矢作川流域圏懇談会事務局：国土交通省 中部地方整備局 豊橋河川事務所

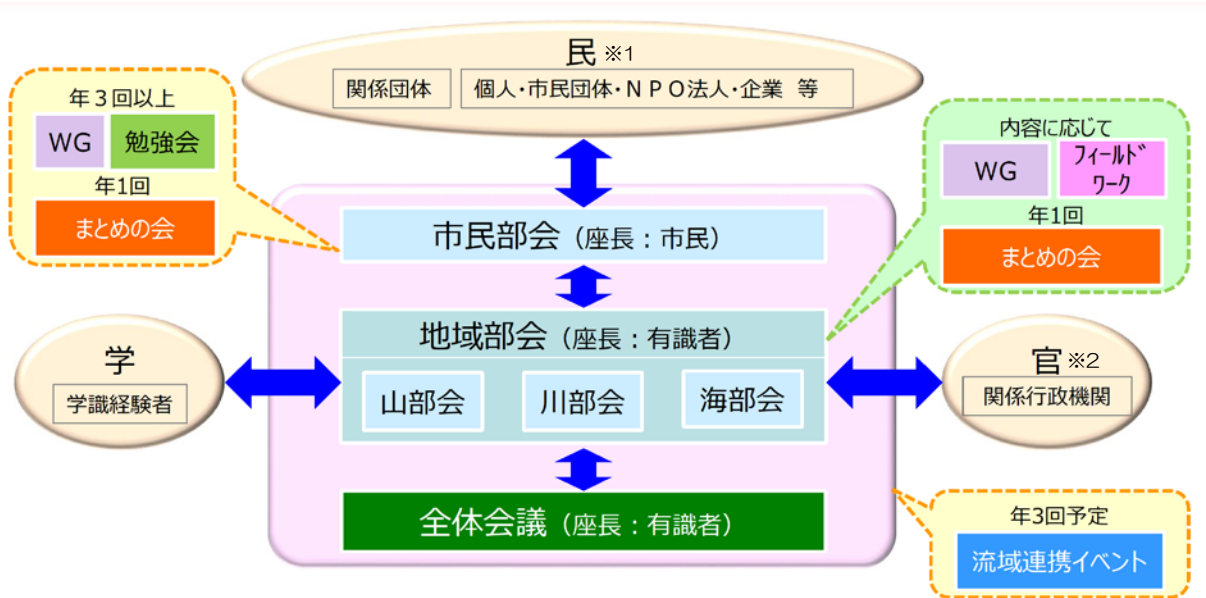
## ■矢作川流域圏懇談会とは



- ◆目的：河川整備計画に基づき、河川管理者だけでは解決できない課題に対し流域一体となって取り組み、互いに連携し、いい川づくりと調和のとれた流域圏全体の発展につなげること。
- ◆メンバー：個人・市民団体、関係団体、学識経験者、国・県・市町村など300名以上
- ◆活動内容：市民が中心となり、矢作川を学び、意見交換を行うことを通じて、流域圏の課題を自分たちで提案し、その解決に向けた、流域圏一体の取り組みを行っている。



■活動範囲



※1：森林組合、漁協、土地改良区、中電、矢水協など  
 ※2：国交省、環境省、農水省、林野庁、愛知県、岐阜県、長野県など

■矢作川流域圏懇談会イメージ

## ■市民が中心となって、流域圏の課題に取り組んでいます



**【市民部会】**  
 <これまでの主な活動>  
 ・市民部会（市民会議）による話し合い。

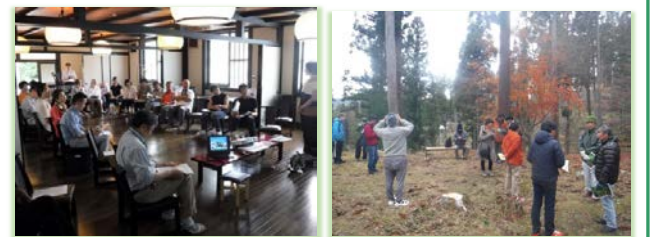
各部会での活動の情報交換や流域圏一体の取り組みに向けた議論、市民提案による勉強会等の活動を行っている。

・市民提案による勉強会（森の健康診断報告会への参加、生き物調査、河川事業の勉強など）



**【山部会】**  
 <これまでの主な活動>  
 ・流域圏（山村再生）担い手づくり事例集の作成  
 ・矢作川流域山村ミーティング  
 ・森づくりガイドラインの検討  
 ・木づかいガイドラインの検討

検討テーマである「人と地域の問題」、「森の問題」を解決するため、事例集、ガイドライン作成に向けて活動している。



**【川部会】**  
 <これまでの主な活動>  
 ・矢作川の治水・環境の取り組み・瀬・淵調査と保全・創出方法の検討  
 ・支川の川づくりについて現地視察、意見交換  
 ・川の活動情報の共有  
 ・河川事業の情報共有

「生き物の棲みやすい川づくり（上下流問題）」「地先の課題」をテーマに、モデル地区での検討を進めている。



**【海部会】**  
 <これまでの主な活動>  
 ・ごみ・流木調査  
 ・干潟生き物調査  
 ・三河湾内水質調査  
 ・海へのアクセス調査  
 ・三河湾におけるアサリ漁業実態の情報共有

「親しみやすい豊かな海」の実現を目標に、ごみ・流木問題、絆再生、干潟・ヨシ原再生をテーマに活動している。



## 矢作川流域圏懇談会の活動進捗

# 1. 市民部会 令和元年度の活動成果 まとめ

## 市民部会発の勉強会の実施

- ・土砂問題の解決策として期待される「土砂バイパス」に関する勉強会を実施した。
- ・各地域部会が抱える問題・課題の対象地を訪れ、他部会に課題を紹介するバスツアーの開催を提案することになった。



中央構造線博物館での説明の様子



小渋ダム周辺の集合写真

## バスツアーの意見集約

- ・「他部会に紹介したい事柄・場所」として各WGにおいて、話し合いを行うことになった。

優先順位		山部会→川・海部会	川部会→山・海部会	海部会→山・川部会
①	内容	森林の問題(放置人工林、木育など)	安永川トンネル工事と明治用水頭首工の状況について	アサリの現状について(写真を用いて過去との比較)
	場所	水源涵養モニタリング調査サイト(豊田市小原地区大洞市有林)	安永川と明治用水頭首工	トンボロ干潟、吉田海岸
②	内容	人と山村の問題(農山村における人々くらし・移住定住)	土砂問題、アーマー化等について	栄養塩類と漁獲量変化について(アサリと海苔)
	場所	つくラッセルの地域活性化事業の見学(豊田市旭地区)	矢作ダム	矢作川浄化センター(終末処理場)
③	内容	森と川・森と海のつながり	支川モデルの取り組み紹介	生物について(鳥や魚など)
	場所	奥矢作森林塾の取り組みの把握(恵那市串原地区)→→矢作ダムで堆砂状況の確認(豊田市旭地区)→→三河の砂が欲しい場所の見学	家下川	トンボロ干潟、吉田海岸

地域部会の意見集約結果

- ・バスツアー2020(仮) 事前ミーティングを全体会議の後に実施する。

## 2. 山部会 令和元年度の活動成果 まとめ

### ① 流域圏担い手づくり事例集

- ・流域圏担い手づくりの取材者、取材先、流域圏懇談会、読者のネットワークをいっそう広げ、深めることをめざした事例集交流会を、6月に岡崎市で開催した。
- ・川部会や海部会所属のメンバーも多く参加し、10年を迎える流域圏懇談会のとりまとめについて意見交換を行った。10年誌編集委員会発足のきっかけとなった。
- ・これまでの事例集づくりで得られた情報と、取材先団体のカテゴリーや団体間の関係を整理し、現段階での事例集づくりの成果を10年誌編集委員会の中で検討を重ねている。

### ② 山村ミーティング

- ・森の健康診断報告会等で矢作川流域林業担い手100人ヒヤリングの結果を報告した。
- ・地域持ち回りの山部会WGにおいて、懇親会と宿泊を通して有識者と当事者の意見交換の場が設けられた。
- ・ヒヤリングの際に、各森林組合において、感謝祭への参加を呼びかけた。組合関係者にも恒例イベントとしての認識が広がっている。



事例集交流会実施状況



10年誌編集委員会における事例集作成の  
ふりかえり



森の健康診断報告会の様子



矢作川感謝祭における流域の森林組合の参加

### ③ 森づくりガイドライン

- ・流域市村の間伐面積の推移を収集し、社会的な背景（国や県市村の林業政策）、気象などの物理的要因について総合的な検討を行った。
- ・地域持ち回りの WG において、その地域に関係の深い方に、森づくりに関する進捗状況や課題について情報提供いただいた。
- ・森林環境譲与税の使いみちについて、流域内の 4 自治体持ち回りの WG の中で、各担当者にご報告いただいた。
- ・岡崎市森林整備ビジョン(策定後 10 年)の改定にあたり、森づくり協議会の設立と内容について情報共有を行った。



豊田市稲武地区の状況報告



夕立山森林塾(恵那市)による話題提供



岐阜県の状況報告

### ④ 木づかいガイドライン

- ・流域内の各市町村から取り組み事例の収集を行った。今後、引き続き取り組み事例の収集と取材を進める。
- ・今年度は、ものさしの制作を含め地域部会や市民部会での議論はできなかったが、部会員の多くが何とか活用できないかと模索している（市民部会では、流域ものさしの活用を望む声が聞かれた）。
- ・矢作川流域での木づかい取り組みが、森林環境譲与税の用途事例として平成 30 年 12 月発行の「自民党国内政策研究会報告書」に紹介された。この報告書を広く関係者に配布して、流域における木づかい推進、森林環境教育の重要性、林業の担い手育成等の必要性を発信した。その他、東京（スカイツリーや府中市）での木づかいライブスギダラキャラバン（木育キャラバン）では、全国の流域関係者や世界の子供たちに向けて、日本の木の魅力や矢作川の水を大切にする流域思想を発信した。
- ・山奥の森林組合でありながら、都市部等で「市民に一番近い森林組合」として「今すぐはじめる木のある暮らし」をテーマに、年間約 50 回「木づかいライブ スギダラ(木育)キャラバン」を実施し、「木のアイテム展示や体験」を通して、多くのファミリーや子供たちに「記憶に残る楽しい時間」を提供した。山村から都市部に向けたこうした「木づかいサービス」を求める声は多く、「木づかいサービス」の提供により、その地域の「魅力づくりや人の輪づくり」にも貢献できることを実感した。
- ・根羽村の一森林所有者の「景観づくりに対する思い入れと協力」により、外国籍企業の CSR 活動として、「サクラとハナモモの桃源郷プロジェクト」を企画し、今年度はハナモモ 200 本の植栽と木づかい体験を行った。今後、森林所有者の企画による企業や市民の労働参加型による継続的なオーダーメイドの山づくりと、木づかいによるプレイスメイキングを進める。



第 6 回全体会議で配布された  
矢作川流域ものさし



コミュニケーションツールとなる「どこでもサウナ」



三河湾大感謝祭での木育キャラバン

### 3. 川部会 令和元年度の活動成果 まとめ

#### ① 本川モデル

- ・豊橋河川事務所から総合土砂管理計画の概要と現在の進捗状況について説明いただき、情報共有を行った。
- ・豊田市や安城市、中部電力の関係者と積極的に意見交換を行った。
- ・第15回勉強会（11月22日）で運用後の小渋ダム土砂バイパスを見学し、土砂バイパスの構造と運用後に見えてきた課題について、天竜川ダム統合管理所の方にご説明いただいた。

#### ② 支川モデル

- ・郷東川で安城市が取り組んできた多自然川づくりについて、現地視察を行った。
- ・安城市が取り組む水田貯留事業に関して、安城市の神谷様より話題提供いただき、意見交換を行った
- ・豊田市の岩本川で、豊田市と矢作川研究所、地域住民が協力して取り組んできた「市民主体による小さな自然再生」の現地視察を行った。現地では矢作川研究所の山本大輔研究員に説明いただいた。

#### ③ 地域連携モデル

- ・事例集の作成は中止となり、代わりに10年を迎える流域圏懇談会のまとめとして、川部会メンバーが考える矢作川のこれまでの流れをまとめた矢作川流域圏年表を作成した。
- ・国土交通省が策定を検討している「河川ごみ対策の手引き（仮称）」に関して、矢作川において生活ごみやペットボトルなどの「散乱ごみ」が多いと考えられる場所について、情報共有を行った。



バイパス内を流れた石



流れた土砂や石により削られた塗装



天竜川ダム統合管理所の説明

## 4. 海部会 令和元年度の活動成果 まとめ

- ① アサリをはじめとする三河湾の生物資源回復に向けた具体的な取り組みに関する意見交換
- ・吉田漁業協同組合の石川組合長、東幡豆漁業協同組合の石川組合長からアサリ漁獲量の推移について話題提供をいただき、三河のアサリ漁業の実態について情報共有を行った。
- ② 海のモニタリングによる情報の蓄積および市民への情報発信を推進する
- ・矢作川浄化センターにおいて、栄養塩の試験放流について話題提供をいただいた。吉田漁業協同組合石川組合長よりのり漁場における近年の水質の変化について話題提供をいただき、意見交換を行った。



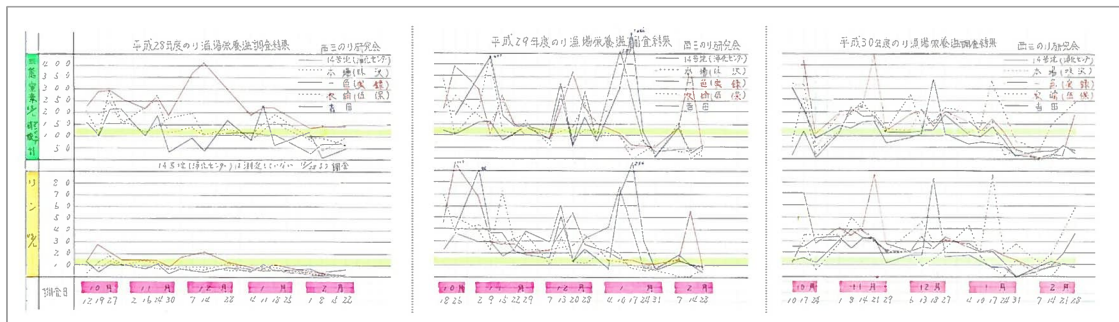
意見交換の風景（第40回海部会WG）



矢作川浄化センターにおける現地確認



漁業者からの現状報告



議論の上で重要となる科学的根拠（水質調査結果）